

A-92 臓器コレステロールの変動に及ぼす脂肪酸の影響
武蔵野女大短大の蔵田幸子、工藤恵美子、木元澄子、中村富美恵、馬嶋正。

目的 飽和脂肪酸と多不飽和脂肪酸摂取による血中コレステロール増減の原因追求の1つとして、これから脂肪酸摂取が臓器コレステロール量の変動に与えるかどうかを、パルミチン酸とリノール酸を用いて調べて見た。

方法 約200g(♂)の白ネズミ10匹を1群としこれを10群に分けた。1, 2, 3, 4, 5群には基本脱脂食にコレステロール-26-C¹⁴ (1.1 Mc/g) 2% + リノール酸 5% 添加し、3日間飼育した後コレステロール 2% + リノール酸 5% 添加したものに替え1, 2, 3, 4, 5日後に血清、血餅、肝臓、筋肉、腎臓、脳のコレステロールを分離し、その量と比放射能を測定した。6, 7, 8, 9, 10群には同基本食にコレステロール-26-C¹⁴ (同) 2% + パルミチン酸 5% 添加し、3日間飼育した後コレステロール 2% + パルミチン酸 5% 添加したものに替え、前群同様測定した。

結果 臓器コレステロール量はリノール酸添加食パルミチン酸添加食共に差異はなかった。その比放射能も血餅、筋肉、腎臓において、リノール酸食のものが稍経日的減少度が少なかったが、大なる差異はなかった。

以上の結果より臓器コレステロールの変動はパルミチン酸とリノール酸摂取との間に差異はないようであった。